

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人 北条福祉協会
事業所名	グループホームなぎさ
所在地	松山市北条辻1170-22
自己評価作成日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 12月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なぎさは瀬戸内海の島々を望むことができる風光明媚な場所に位置しています。建物は鉄骨造平屋建て、居間・食堂・台所を一区画とし、明るくかつ広い居住空間を提供しています。居室1室当りの居住スペースも13.8㎡あります。入居者が楽しみにしている食事については、地元の新鮮な食材を取り入れ、利用者の意見を聞きながら、いつもおいしいと言われる食事作りを目指しています。また、利用者とおやつ作り(パンやおはぎなど)にも取り組んでいます。行事を通じて地域との関係を深めながら、「穏やかな環境作り」を進め、家庭的で安全・安心のある楽しい日々を過ごしています。恒例の野菜作りは利用者の生きがいに通じ、今年もスイカや空豆、トマト、ブロッコリーなどの野菜作りをし収穫することができました。家族や地域との交流行事(サロンとの交流、七夕、いもたき会、忘年会)は利用者の大きな楽しみ行事として定着しています。今年にはようみバラ園や近隣施設の夏祭りにも参加することができました。いもたき会には入居者、家族、地域、職員を含めて100名弱の参加があり、盛大に開催することができました。健康管理や病院受診については、家族との連絡を密にし、家族との意向に沿って受診をしています。また、重度化に対応するために、早期から終末期のあり方について方針を共有しています。□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義をふまえた分かりやすい理念を作成し、自治会に加入して利用者と職員は地域の行事に積極的に参加している。町内の自主防災組織にも加わり、「災害時互助協定」を結んで連携を図っている。事業所の共用空間は広々として明るく、床暖房で適温が保たれている。医師である代表者は、毎日来所し利用者の状態を把握しており、リハビリなど利用者一人ひとりの身体状況に合わせて対応している。また、利用者や家族の希望に沿って安心して納得した最期を迎えられるよう、体制を整え支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームなぎさ
(ユニット名)	せと
記入者(管理者)	
氏名	梶山洋三
評価完了日	平成24年10月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。理念をユニット食堂に掲示したり、ユニット玄関に入居者直筆の理念を掲示し、地域の人や来所者にもわかりやすくしている。	
			(外部評価) 設立時の理念を見直し、シンプルでわかりやすい理念に作り変えている。玄関等に掲示し、全職員で共有しケアに反映されているか確認しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区サロンとの交流会や地区行事への参加を通じて、地区住民との交流に取り組んでいる。	
			(外部評価) 自治会に加入し回覧板や区長から情報を集め、新年会や七夕、秋祭りなど地域の行事に利用者と職員が参加している。事業所主催の芋炊き会には地域住民も多数参加している。いきいきサロンへの参加や保育園児の訪問、中学生の体験学習や高校生のボランティア受け入れ等、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地区サロンとの交流会で介護教室を開催し、介護技術や介護予防について理解を深めてもらっている。人材育成のための介護実習生の受け入れも積極的に受け入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を偶数月に開催し、運営推進委員や家族から出た意見をサービス向上に役立てている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、地域住民代表、市職員等の参加を得て、2か月毎に開催している。事業所の現状や取組みを報告し、参加者から意見や要望をもらいサービス向上に活かしている。特に地域住民から具体的で有意義な意見が出されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者が運営推進会議に参加することで、情報交換等をし、サービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議で事業所の現状を報告し、情報や助言をもらい連携している。また、地域包括支援支援センター主催の北条地区サービス調整会に毎月参加し、情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について、職員会議等で勉強会を行い、玄関の施錠をしないなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 法人全体で開催される勉強会に職員全員が出席し、身体拘束の具体的な行為と弊害について正しく理解をしている。利用者の安全を確保しつつ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について、職員会議等で勉強会を行い、全職員が意識を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修報告を行うことで、職員の意識付けをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書、利用契約書を十分に説明した上で契約をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議、受付箱などで利用者や家族の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。	
			(外部評価) 家族が来所した際は利用者の状況等を説明し、意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望等は職員間で話し合い、運営に反映させるよう努めている。玄関に設置している意見箱を活用し、出された意見の内容と対応結果を掲示している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回人事考課や意見箱を置き、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
			(外部評価) 代表者は毎日事業所に来所し、職員と接する機会を多く持つように努めている。代表者は毎年2回人事考課を実施し、職員の意見や提案を聞いている。職員用の意見箱も設置し、出された要望と対応結果を掲示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は利用者の状態把握のため、頻回に現場に来ている。また、職員からの報告や意見を受け、職場環境の向上に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内外の研修参加を設けるとともに職員会で研修報告をし、職員の介護知識、技術向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が松山市北条サービス会議に参加し、ネットワーク作りや勉強会などを通して、サービスの質の向上に努めている。また、研修会で他施設の職員と意見交換を通じ、業務遂行に役立てている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、本人の状態把握をするとともに本人の不安や希望を聞くことで、本人との信頼関係を築くことに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、家族からの相談を真摯に受け止 め、問題解決に向けてお互い協力しあえるような関係 作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人と家族への支援を十分に職員が把握し、その時に 応じた柔軟な対応をするよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 本人が安全、安心して過ごせるように、精神的支えと なるように信頼関係を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族との関係が円滑に行くよう配慮しながら、 本人を支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 外出時に馴染みの場所で馴染みの人に再会すること で、以前の生活を回想できるようにし、その時の写真 をアルバムに残して回想できるような支援に努めてい る。 (外部評価) 家族をはじめ知人や友人の訪問があり、居室でくつろ げるように配慮している。利用者のかつての住まいの 近くをドライブしたり、家族同行で馴染みの美容院に 出かけたり、自宅に帰ったりと、馴染みの人や場所と の関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一緒に行事に行ったり、外出したりして、共に過ごせる時間を持ち、支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後もその都度、行事の案内をしたり、来所してもらったりして関わりを持つことを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じて、本人の意向や希望を聞き、把握に努め、本人本位に活かしている。	
			(外部評価) 思いや意向を言葉で表すことのできる利用者が多いが、困難な場合は日々の行動や表情から読み取っている。得られた情報はタブレット型コンピューターを使って職員全員が共有できるシステムを導入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取り、把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や物、場所を把握し、外出時に回想できるような支援に努めている。心身状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で、出来る事や役割を支援し、現状を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスに家族の参加をお願いし、本人、家族の意見、希望を取り入れ、介護計画を作成している。欠席の場合は、事前に家族の要望を聞いている。	
			(外部評価) アセスメントを基に関係者の意見等を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、3か月毎に見直しを行っている。介護計画は家族に説明し同意を得て支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ファイルを作成し、記録し共有することで、介護計画に活かしている。申し送りや休憩時間に職員間で気づきを話し合い、情報を常に共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外出や外泊など柔軟に対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員が参加し、情報交換や協力関係を強化する努力をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を取り入れ、協力病院や他の医療機 関で適切な医療が受けられるようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診できるよ う支援し、連携も取っている。受診は家族が同行し、 情報を共有している。事業所には、医師でもある代表 者は毎日来所し、利用者の状態を把握しており、利用 者と家族の安心感は大きい。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置し、24時間体制で常に看護職と介護 職が連携をとりながら健康管理や医療支援をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関と連携し、情報交換しながら、早期退院 に向けて相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合について、早くから家族と話しあい、 方針を共有している。ターミナルケア研修会にも参加 し、ターミナルケアを実践し、終末期のケア向上に努 めている。	
			(外部評価) 入居時に事業所の方針を伝え、利用者と家族の意向に 沿って安心して終末期を迎えられるよう、繰り返し意 思を確認しながら取り組んでいる。看取りの指針を作 成し、職員は外部及び内部研修を受講し体制を整えて いる。看取りを経験することで、職員は達成感とやり がいを感じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師が24時間体制で待機しており、すぐ連絡・指示を受け入れるようになっている。月に1回の介護教室や職員会の勉強会により、事故発生時の対応ができるよう訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるとともに、近隣や地区の応援が得られるよう、避難訓練を通じて協力してもらっている。 (外部評価) 緊急連絡網や訓練マニュアル、避難経路図を作成し、職員と利用者、地域住民も参加して夜間想定訓練を行っている。訓練後には反省会も行っている。地域自主防災組織に加わり、災害時互助協定を結んでいる。事業所の地域交流スペースを地域住民の避難場所として提供することになっている。火災報知器やスプリンクラーも設置している。	事業所が海から近いこともあり、さまざまな災害を想定した訓練を地域住民と連携しながら繰り返し実施するよう期待したい。災害時互助協定に基づき、備蓄についても適宜準備することを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアをすることを最重点とし、個人情報の扱いについて十分注意している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重している。特にトイレ誘導時等では、プライバシーを損ねないよう声かけや対応に気をつけている。個人情報が含まれる書類等の取り扱いについても管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、本人の選択肢を増やし、自己決定しやすいよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら、本人の希望を最優先して、本人のペースを大事にしながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日衣服が同じにならないよう身だしなみに注意をし、その人らしい身だしなみができるよう髪飾りなどができる支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望に沿うような食事作りをし、職員と一緒に食事をしている。食事の下準備や食器拭きも職員と一緒にやっている。	
			(外部評価) 栄養士の立てた献立を参考に、新鮮な食材を配達してもらい、畑で採れた野菜も使って職員が調理している。利用者の好みは、日々の会話などから把握している。職員は利用者と一緒にテーブルで、会話を楽しみながら食事をとっている。利用者も食器拭き等できることをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取を記録し、状態に応じた支援をしている。不足する場合は、好みの物を用意し、補えるよう支援をしている。食事前の口腔体操をし、食欲を高め、食事が楽しんでいただけるように言葉かけや環境作りをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前の歯磨きや義歯の洗浄、食前の口腔体操を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮しつつ、排便チェック表を使用し、利用者に合わせた排泄が出来るよう支援している。また、コンピューターの記録システムを使用し、日常記録を取り出すことができるようにしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、自立に向けてトイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。現在おむつを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を使用し、毎日のリハビリや散歩を通して身体を動かしたり、飲食物の工夫をしたり、入浴時腹部マッサージを行うなど便秘予防に努めている。排便の情報を職員間で共有している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞き、行事なども考慮しながら、楽しみながら入浴ができるよう支援している。また、入浴剤を使用し個浴することで、一人一人とのコミュニケーションの場としても、ゆったりと時間がかけられるような支援をしている。入浴日以外に足浴を実施している。	
			(外部評価) 週3回、午後に入浴できるようにしている。利用者の希望や体調に配慮して、また入浴の苦手な利用者には無理強いせず、声かけ等を工夫しながら支援している。リフトも設置されており、重度化にも対応できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握し、体調を考慮し、安心して休息したり、眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、服薬について全職員が理解すると共に誤薬防止のため二人の職員による服薬チェックを実施している。また、服薬後の薬袋は当日すぐ廃棄せず、保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴に応じて、得意分野を見つけ出し、それを活かしている。食器拭きや洗濯物たたみ、庭掃除、水やり、草引きなど役割を持ってもらうように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出時に本人の希望を聞き、偏りなく外出ができるよう支援している。家族の協力も得て、施設では行けない所に個人的に行く事ができている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望に合わせて、近隣の洋品店や薬局などに買い物に出かけられるように支援している。季節の花見や花火、ドライブなど家族の協力を得ながら、年間行事計画をたてている。戸外に出かけられるよう、日頃からリハビリにも力を入れて体力づくりをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、買い物時は本人にお金を支払ってもらい、社会性の維持に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に本人から電話したり、手紙を出す事ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に利用者の馴染みのものを取り入れ、共有空間は利用者が心地よく過ごせるようにしている。また、穏やかに過ごせるよう空間作りを提供している。	
			(外部評価) 共用空間は広々として明るく、居間には人数分のソファと本棚やテレビ、季節の花などが置かれ、ゆっくりくつろぐことができる。南の庭に面した大きい掃き出し窓は、カーテンで日差しを調節している。床暖房により適温が保たれ、居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間を広くとることで、一人ひとりがゆったり過ごしたり、利用者同士が会話できる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅から使い慣れた物を持ち込んだり、家族との思い出の物を持ち込んだりして、家族との絆を大切に過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室にはベッドやクローゼット、エアコン、洗面台が整備され、2部屋で1つのトイレが使用できるようになっている。利用者は、使い慣れた整理ダンスやイス、仏壇や花鉢などを持ち込んで、落ち着いて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のわかる力を職員は大切に考え、自立した生活ができるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人北条福祉協会
事業所名	グループホームなぎさ
所在地	松山市北条辻1170-22
自己評価作成日	平成24年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 12月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なぎさは瀬戸内海の島々を望むことができる風光明媚な場所に位置しています。建物は鉄骨造平屋建て、居間・食堂・台所を一区画とし、明るくかつ広い居住空間を提供しています。居室1室当りの居住スペースも13.8㎡あります。入居者が楽しみにしている食事については、地元の新鮮な食材を取り入れ、利用者の意見を聞きながら、いつもおいしいと言われる食事作りを目指しています。また、利用者とおやつ作り(パンやおはぎなど)にも取り組んでいます。行事を通じて地域との関係を深めながら、「穏やかな環境作り」を進め、家庭的で安全・安心のある楽しい日々を過ごしています。恒例の野菜作りは利用者の生きがいに通じ、今年もスイカや空豆、トマト、ブロッコリーなどの野菜作りをし収穫することができました。家族や地域との交流行事(サロンとの交流、七夕、いもたき会、忘年会)は利用者の大きな楽しみ行事として定着しています。今年にはよしうみバラ園や近隣施設の夏祭りにも参加することができました。いもたき会には入居者、家族、地域、職員を含めて100名弱の参加があり、盛大に開催することができました。健康管理や病院受診については、家族との連絡を密にし、家族との意向に沿って受診をしています。また、重度化に対応するために、早期から終末期のあり方について方針を共有しています。□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義をふまえた分かりやすい理念を作成し、自治会に加入して利用者と職員は地域の行事に積極的に参加している。町内の自主防災組織にも加わり、「災害時互助協定」を結んで連携を図っている。事業所の共用空間は広々として明るく、床暖房で適温が保たれている。医師である代表者は、毎日来所し利用者の状態を把握しており、リハビリなど利用者一人ひとりの身体状況に合わせて対応している。また、利用者や家族の希望に沿って安心して納得した最期を迎えられるよう、体制を整え支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームなぎさ

(ユニット名) たかなわ

記入者(管理者)
氏名 梶山洋三

評価完了日 平成24年10月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。理念をユニット食堂に掲示したり、ユニット玄関に入居者直筆の理念を掲示し、地域の人や来所者にもわかりやすくしている。</p> <p>(外部評価) 設立時の理念を見直し、シンプルでわかりやすい理念に作り変えている。玄関等に掲示し、全職員で共有しケアに反映されているか確認しながら実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区サロンとの交流会や地区行事への参加を通じて、地区住民との交流に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し回覧板や区長から情報を集め、新年会や七夕、秋祭りなど地域の行事に利用者と職員が参加している。事業所主催の芋炊き会には地域住民も多数参加している。いきいきサロンへの参加や保育園児の訪問、中学生の体験学習や高校生のボランティア受け入れ等、積極的に交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地区サロンとの交流会で介護教室を開催し、介護技術や介護予防について理解を深めてもらっている。人材育成のための介護実習生の受け入れも積極的に受け入れている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を偶数月に開催し、運営推進委員や家族から出た意見をサービス向上に役立てている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、地域住民代表、市職員等の参加を得て、2か月毎に開催している。事業所の現状や取組みを報告し、参加者から意見や要望をもらいサービス向上に活かしている。特に地域住民から具体的で有意義な意見が出されている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市担当者が運営推進会議に参加することで、情報交換等をし、サービス向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議で事業所の現状を報告し、情報や助言をもらい連携している。また、地域包括支援センター主催の北条地区サービス調整会に毎月参加し、情報交換をしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束について、職員会議等で勉強会を行い、玄関の施錠をしないなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人全体で開催される勉強会に職員全員が出席し、身体拘束の具体的な行為と弊害について正しく理解をしている。利用者の安全を確保しつつ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について、職員会議等で勉強会を行い、全職員が意識を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修報告を行うことで、職員の意識付けをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書、利用契約書を十分に説明した上で契約をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議、受付箱などで利用者や家族の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。	
			(外部評価) 家族が来所した際は利用者の状況等を説明し、意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望等は職員間で話し合い、運営に反映させるよう努めている。玄関に設置している意見箱を活用し、出された意見の内容と対応結果を掲示している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回人事考課や意見箱を置き、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。 (外部評価) 代表者は毎日事業所に来所し、職員と接する機会を多く持つように努めている。代表者は毎年2回人事考課を実施し、職員の意見や提案を聞いている。職員用の意見箱も設置し、出された要望と対応結果を掲示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は利用者の状態把握のため、頻回に現場に来ている。また、職員からの報告や意見を受け、職場環境の向上に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内外の研修参加を設けるとともに職員会で研修報告をし、職員の介護知識、技術向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が松山市北条サービス会議に参加し、ネットワーク作りや勉強会などを通して、サービスの質の向上に努めている。また、研修会で他施設の職員と意見交換を通じ、業務遂行に役立てている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、本人の状態把握をするとともに本人の不安や希望を聞くことで、本人との信頼関係を築くことに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、家族からの相談を真摯に受け止め、問題解決に向けてお互い協力しあえるような関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族への支援を十分に職員が把握し、その時に応じた柔軟な対応をするよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が安全、安心して過ごせるように、精神的支えとなるように信頼関係を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族との関係が円滑に行くよう配慮しながら、本人を支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時に馴染みの場所で馴染みの人に再会することで、以前の生活を回想できるようにし、その時の写真をアルバムに残して回想できるような支援に努めている。	
			(外部評価) 家族をはじめ知人や友人の訪問があり、居室でくつろげるように配慮している。利用者のかつての住まいの近くをドライブしたり、家族同行で馴染みの美容院に出かけたり、自宅に帰ったりと、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一緒に行事に行ったり、外出したりして、共に過ごせる時間を持ち、支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後もその都度、行事の案内をしたり、来所してもらったりして関わりを持つことを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じて、本人の意向や希望を聞き、把握に努め、本人本位に活かしている。	
			(外部評価) 思いや意向を言葉で表すことのできる利用者が多いが、困難な場合は日々の行動や表情から読み取っている。得られた情報はタブレット型コンピューターを使って職員全員が共有できるシステムを導入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取り、把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や物、場所を把握し、外出時に回想できるような支援に努めている。心身状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で、出来る事や役割を支援し、現状を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスに家族の参加をお願いし、本人、家族の意見、希望を取り入れ、介護計画を作成している。欠席の場合は、事前に家族の要望を聞いている。	
			(外部評価) アセスメントを基に関係者の意見等を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでモニタリングを行い、3か月毎に見直しを行っている。介護計画は家族に説明し同意を得て支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ファイルを作成し、記録し共有することで、介護計画に活かしている。申し送りや休憩時間に職員間で気づきを話し合い、情報を常に共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外出や外泊など柔軟に対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員が参加し、情報交換や協力関係を強化する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を取り入れ、協力病院や他の医療機 関で適切な医療が受けられるようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診できるよ う支援し、連携も取っている。受診は家族が同行し、 情報を共有している。事業所には、医師でもある代表 者は毎日来所し、利用者の状態を把握しており、利用 者と家族の安心感は大きい。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置し、24時間体制で常に看護職と介護 職が連携をとりながら健康管理や医療支援をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関と連携し、情報交換しながら、早期退院 に向けて相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合について、早くから家族と話しあい、 方針を共有している。ターミナルケア研修会にも参加 し、ターミナルケアを実践し、終末期のケア向上に努 めている。	
			(外部評価) 入居時に事業所の方針を伝え、利用者と家族の意向に 沿って安心して終末期を迎えられるよう、繰り返し意 思を確認しながら取り組んでいる。看取りの指針を作 成し、職員は外部及び内部研修を受講し体制を整えて いる。看取りを経験することで、職員は達成感とやり がいを感じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師が24時間体制で待機しており、すぐ連絡・指示を受け入れるようになっている。月に1回の介護教室や職員会の勉強会により、事故発生時の対応ができるよう訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるとともに、近隣や地区の応援が得られるよう、避難訓練を通じて協力してもらっている。 (外部評価) 緊急連絡網や訓練マニュアル、避難経路図を作成し、職員と利用者、地域住民も参加して夜間想定訓練を行っている。訓練後には反省会も行っている。地域自主防災組織に加わり、災害時互助協定を結んでいる。事業所の地域交流スペースを地域住民の避難場所として提供することになっている。火災報知器やスプリンクラーも設置している。	事業所が海から近いこともあり、さまざまな災害を想定した訓練を地域住民と連携しながら繰り返し実施するよう期待したい。災害時互助協定に基づき、備蓄についても適宜準備することを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアをすることを最重点とし、個人情報の扱いについて十分注意している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重している。特にトイレ誘導時等では、プライバシーを損ねないよう声かけや対応に気をつけている。個人情報が含まれる書類等の取り扱いについても管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、本人の選択肢を増やし、自己決定しやすいよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら、本人の希望を最優先して、本人のペースを大事にしながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日衣服が同じにならないよう身だしなみに注意をし、その人らしい身だしなみができるよう髪飾りなどができる支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望に沿うような食事作りをし、職員と一緒に食事をしている。食事の下準備や食器拭きも職員と一緒にやっている。	
			(外部評価) 栄養士の立てた献立を参考に、新鮮な食材を配達してもらい、畑で採れた野菜も使って職員が調理している。利用者の好みは、日々の会話などから把握している。職員は利用者と一緒にテーブルで、会話を楽しみながら食事をとっている。利用者も食器拭き等できることをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取を記録し、状態に応じた支援をしている。不足する場合は、好みの物を用意し、補えるよう支援をしている。食事前の口腔体操をし、食欲を高め、食事が楽しんでいただけるように言葉かけや環境作りをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前の歯磨きや義歯の洗浄、食前の口腔体操を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮しつつ、排便チェック表を使用し、利用者に合わせた排泄が出来るよう支援している。また、コンピューターの記録システムを使用し、日常記録を取り出すことができるようにしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、自立に向けてトイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。現在おむつを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を使用し、毎日のリハビリや散歩を通して身体を動かしたり、飲食物の工夫をしたり、入浴時腹部マッサージを行うなど便秘予防に努めている。排便の情報を職員間で共有している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞き、行事なども考慮しながら、楽しみながら入浴ができるよう支援している。また、入浴剤を使用し個浴することで、一人一人とのコミュニケーションの場としても、ゆったりと時間がかけられるような支援をしている。入浴日以外に足浴を実施している。	
			(外部評価) 週3回、午後に入浴できるようにしている。利用者の希望や体調に配慮して、また入浴の苦手な利用者には無理強いせず、声かけ等を工夫しながら支援している。リフトも設置されており、重度化にも対応できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握し、体調を考慮し、安心して休息したり、眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、服薬について全職員が理解すると共に誤薬防止のため二人の職員による服薬チェックを実施している。また、服薬後の薬袋は当日すぐ廃棄せず、保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴に応じて、得意分野を見つけ出し、それを活かしている。食器拭きや洗濯物たたみ、庭掃除、水やり、草引きなど役割を持ってもらうように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出時に本人の希望を聞き、偏りなく外出ができるよう支援している。家族の協力も得て、施設では行けない所に個人的に行く事ができている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望に合わせて、近隣の洋品店や薬局などに買い物に出かけられるように支援している。季節の花見や花火、ドライブなど家族の協力を得ながら、年間行事計画をたてている。戸外に出かけられるよう、日頃からリハビリにも力を入れて体力づくりをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、買い物時は本人にお金を支払ってもらい、社会性の維持に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に本人から電話したり、手紙を出す事ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に利用者の馴染みのものを取り入れ、共有空間は利用者が心地よく過ごせるようにしている。また、穏やかに過ごせるよう空間作りを提供している。	
			(外部評価) 共用空間は広々として明るく、居間には人数分のソファと本棚やテレビ、季節の花などが置かれ、ゆっくりくつろぐことができる。南の庭に面した大きい掃き出し窓は、カーテンで日差しを調節している。床暖房により適温が保たれ、居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間を広くとることで、一人ひとりがゆったり過ごしたり、利用者同士が会話できる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅から使い慣れた物を持ち込んだり、家族との思い出の物を持ち込んだりして、家族との絆を大切に過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室にはベッドやクローゼット、エアコン、洗面台が整備され、2部屋で1つのトイレが使用できるようになっている。利用者は、使い慣れた整理ダンスやイス、仏壇や花鉢などを持ち込んで、落ち着いて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のわかる力を職員は大切に考え、自立した生活ができるよう工夫している。	